



令和 6 年 12 月 25 日

広島大学 藤原翔太准教授が大佛次郎論壇賞（第 24 回）を受賞しました**情報提供**

2024 年 12 月 24 日、広島大学大学院人間社会科学研究科の藤原翔太准教授の著書『ブリュメール 18 日—革命家たちの恐怖と欲望—』（慶應義塾大学出版会、2024 年）が、朝日新聞社主催の^{おさざきじろう}大佛次郎論壇賞（第 24 回）を受賞しました。

なお、贈呈式・祝賀会（朝日賞、朝日スポーツ賞などと合同開催）は、2025 年 1 月 30 日（木）に帝国ホテル東京で開かれます。

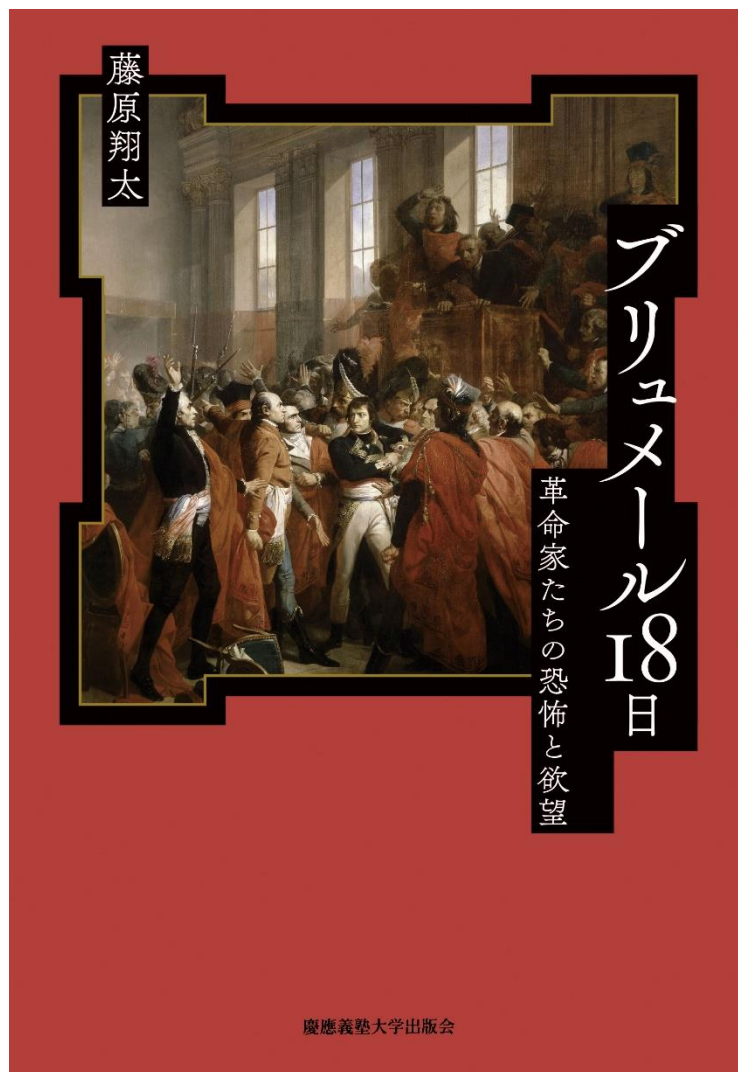
大佛次郎論壇賞は、小説、ノンフィクション、歴史記述など幅広い分野で活躍した作家・大佛次郎さんの業績をたたえて、1973 年に創設された「大佛次郎賞」に加えて、2001 年に新設されたものです。日本の政治・経済・社会・文化・国際関係などをめぐる優れた論考を顕彰することを目的としています。

本学では、2003 年に篠田英朗さん（当時、平和科学研究センター准教授）が大佛次郎論壇賞を、2021 年に堀川恵子さん（本学卒業生）が大佛次郎賞を受賞しています。

『ブリュメール 18 日—革命家たちの恐怖と欲望—』は、ナポレオンが総裁政府を打倒し権力の座についたクーデタ「ブリュメール 18 日」を、ナポレオンが独裁を志向した結果として捉えるのではなく、むしろフランス革命の成果を守るために、改憲派の革命家たちがナポレオンを権力の座に引き上げた事件として理解し、革命家たちの視点に立って考察しています。革命期に発展した民主主義を、思いどおりに制御できなかった革命家たちが、まさにその民主主義のなかから権威主義体制を形成していく過程を、派閥の動向、憲法、選挙制度、地方行政の改革を通して明らかにしています。

定価 2,640 円(税込)、Amazon、広島大学生協、主要な書店（紀伊国屋書店、啓文社、宮脇書店など）で販売しています。

藤原翔太准教授のコメント：この度、拙著『ブリュメール 18 日 革命家たちの恐怖と欲望』に対し、朝日新聞社より第 24 回大佛次郎論壇賞をいただきました。従来、ナポレオンの視点からしか語られてこなかった「ブリュメール 18 日」を、あえてナポレオンに言及せずに、改憲派の革命家たちが自らの利益を守るためにナポレオンを担ぎ上げた出来事として捉え直しました。フランス革命の末期、革命家たちが目先の利益にとらわれて、妥協を重ね、次第に当初の理念を捨てていった先に「独裁」が現れていく過程は、現代を生きるわれわれにも多くの示唆を与えてくれます。今後は、革命家たちが生み出した「独裁」が、その後、どのように維持されたのか、その仕組みを明らかにしていきたいと考えています。



<著書一覧>

単著『ブリュメール18日 革命家たちの恐怖と欲望』

(慶應義塾大学出版会、2024年4月)

訳書『女性たちのフランス革命』(慶應義塾大学出版会、2022年1月)

単著『ナポレオン時代の国家と社会一辺境からのまなざし』

(刀水書房、2021年3月)

共著『東アジアから見たフランス革命』(風間書房、2021年3月)

共著『フランスの歴史を知るための50章』(明石書店、2020年5月)

<受賞歴>

2017年3月 広島大学学生表彰(学術・研究活動)

【お問い合わせ先】

大学院人間社会科学研究科 准教授 藤原 翔太

Tel: 082-242-6649

E-mail: fujish@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数: A4版 2枚(本票含む)

